

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル小針上山		
○保護者評価実施期間	令和7年11月12日		～ 令和7年12月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和7年11月12日		～ 令和7年12月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童や保護者のニーズ、課題等を、職員全員で共有したうえで、個別指導計画を作成し、それに基づいた支援を行っている。	児童の発達や特性に応じた個別的な課題について、職員間で定期的にミーティングを設け支援方法などを検討、共有している。	職員間での情報共有をより密に行い、児童の小さな変化を見逃さない支援体制の構築を進めていく。
2	日頃から児童の状況を保護者と共有することで、児童の健康や発達について共通理解ができている。	保護者の相談しやすい環境・雰囲気作りに努め、小さなことでも連絡取り合う等、コミュニケーションを密にしている。	保護者との関係をより強化し、保護者の悩みやニーズなどを確認していき、児童の支援へと繋げていく。
3	日頃から、療育スペースの整理整頓に努め、児童にとって安全で分かりやすく構造化された環境になるよう工夫している。	児童の特性に合わせて、音声だけでなく文字やイラスト等を活用し、理解しやすい伝達方法を取り入れている。	ヒヤリ・ハット報告書等を活用し、安全面への配慮や危険箇所の早期発見・改善に努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域のこどもと活動する機会が少ない。	事業所内で行う活動が多く、意図的に地域や他のこどもと関わろうとする企画等が少ないため。	地域のイベントに積極的に参加することや、地域を巻き込んだ活動を企画し、周知していくことが必要である。
2	家族等の参加できる研修の機会や、情報提供等を行う機会が少ない。	保護者支援の必要性を認識し支援を行っているが、定期的に行える場面の設定や、保護者への周知・案内が十分ではないため。	保護者会等の機会を設け、保護者との面談や相談を行う取り組みを定着させていく。また、保護者の相談に適切に対応できるよう、職員一人ひとりの専門性の向上を図る。
3	卒業後の進路や、社会参加を見据えた視点が十分とは言えない。	高学年・行動支援に関する専門的研修の機会の不足。	就労支援・進路支援事業所や相談事業所との連携体制を構築する。